今井館ニュース
Imaikan News
第 62 号
2025 年 7 月 31 日発行

十字架の赦しを自分の事として生きる

西永 頌

最晩年の内村鑑三について矢内原忠雄は次のように語っている。重い心臓病のため講壇に立つことが出来なくなった聖日、内村は自宅の敷地内にあった今井館に来て、祈祷だけをした。その祈りは「どうか神様、イエス・キリストによって私の罪を赦して下さい」という簡単な祈りで、それを祈りのたびごとに繰り返し、時には涙を流して祈った。

イエス・キリストの十字架による罪の赦しを自分の事として生きた内村の生涯がこの祈りに最も良く示されている。十字架による赦しはキリスト教徒であればだれでも良く知っている。しかし、これを教義として知っていても、自分の事として受け取る人は非常に少ない。自分の罪を本当には自覚していないためである。

内村が十字架による自分の罪の赦しを初めて自分の事として自覚したのは 26 才の時アマースト大学においてシーリー学長に出会った時のことである。彼がキリスト教に接したのは 17 才の時なので十字架による罪の赦しを自分の事として自覚するまで 9 年の年月を要したことになる。教義としての十字架の贖罪を知ることと、それを自分の事として受け入れることとでは天と地の差がある。この自覚のために内村は最初の結婚の破綻という非常に辛い経験を経なければならなかった。友人たちが官費を得て周囲の称賛の内に留学して行ったのに比べ内村は自費で逃げるように渡米した。最初、エルウインの白痴院で看護人として働いたのも結婚の破綻への自分の責任を思い慈善事業に従事し自分の罪を少しでも軽くしようと考えたからであろう。しかし、慈善事業では内村の罪は解決されずシーリーとの出会いを待つ必要があった。

内村の生涯には最初の結婚の破綻から始まり明治天皇の教育勅語に深く礼をしなかったことを非難され職を失った第一高等中学校不敬事件、その直後、妻加寿子の死、その後の生活の困窮、娘ルツ子の死など次々に苦難が降りかかった。しかし、これらの苦難は内村を神から離反させるどころかますます神に追いやり、そのたびごと内村はキリストの十字架にすがり生きた。これらの

内村鑑三と初代今井館（今井館所蔵）

内村の苦難は人の目から見れば真に理不尽な出来事である。しかし、この理不尽は神のご意志によるものであり、神は理不尽な出来事を用いてご自分の計画を実現されるのである。

現在に目を転じれば日本および世界は実に理不尽な出来事に満ちている。ウクライナとロシア、イスラエルとガザにおいて残虐非道な戦争が起きている。神を愛し隣人を自分のように愛しなさいとのイエスの戒めに人はとことん逆らっている。このような、人の神への反逆を神は放置されないであろう。隣国を蹂躙する軍国主義日本が、ナチスが審かれ姿を消したように、現在の神への反逆はやがて神に審かれるであろう。しかし、このような理不尽を用いて神はご自分の計画を着々と進められることを知る。われわれは神のご計画がどのような形で成就するのかをかたずをのんで見守りながら、イエス・キリストの戒めにあゆみ、その戒めに歩めない自分の罪をイエスが十字架によって負って下さったことに感謝し歩む日々でなくてはならないと思う。

（にしなが たたう　今井館教友会前理事長・
逆井聖書集会主宰・無教会新宿集会会員）

目　　次

表紙・巻頭言
目次・内村鑑三の言葉
表紙について・発行趣旨……....2
矢内原資料について（その２）……..3
安曇野夏の集い……..……..……...…….....5
柳父圀近氏追悼……..……..……...…….....6
第 36 回『内村鑑三研究』セミナー報告……....7
学園・学寮だより.....……...8
各種行事のご案内.....……....11
各地からの報告・定期集会・
特別集会のお知らせ……..…..12
事務局便り…….....15
維持会員募集のお知らせ・編集後記……..16

内村鑑三の言葉

「米（こめ）の滋養分（やしなひぶん）」

北海道の土地は麦類及玉蜀黍には最も適当したる者と雖（いえど）も米は暖国の穀類ゆへ当道の如き寒国の人民には常食となすべき者にあらず　然るに当道人民は己の所有地に生育する所の養分に富みたる麦類及玉蜀黍を食せずして却て高価（たかねだん）なる米を他道に仰ぐは実に歎（なげ）かはしきことならずや

選者注：『農業叢談』（札幌農学校）2号（1880年2月）、『内村鑑三全集』1巻、6頁

内村鑑三19歳、最初の報告書。日本人は米を最上の食物としてきたが、決して「養分（やしなひ）」が多いわけではない。小麦、大麦、燕麦、裸麦、玉蜀黍の澱粉、脂肪、繊維、窒素、灰などの要素から、含有する無機体の多寡も比較し、米は麦類、玉蜀黍より劣ると分析する。しかも、米は消化が速く、農夫などの「力役（はたらく）者」には適さないという。ここには内村の科学的精神をもとに、当時北海道で生育に適した、安価で栄養価の高い麦類、玉蜀黍を常食とする重要性が指摘されている。明治初期の開拓地・北海道の厳しい自然環境と農民への思いが滲んでいないだろうか。

（選：NPO法人今井館教友会監事　小林孝吉）

○表紙について

本号の巻頭言は、西永頌前理事長が、内村の十字架にすがる祈りについてお書き下さった。矢内原忠雄は、師が罪の赦しを願う最晩年の祈りの姿を、しっかり心に刻んでいたようです。西永さんは内村が生涯を通して経験した苦難に思いを馳せながら、世界の理不尽に目を向けられ、この理不尽は神のご計画によるもの、と述べられています。そして、私たちも師の姿に学び、世界の行く末を見つめながら、主に祈りたいと思います。西永さんについては、矢内原資料のページも合わせてお読みください。　（CY）

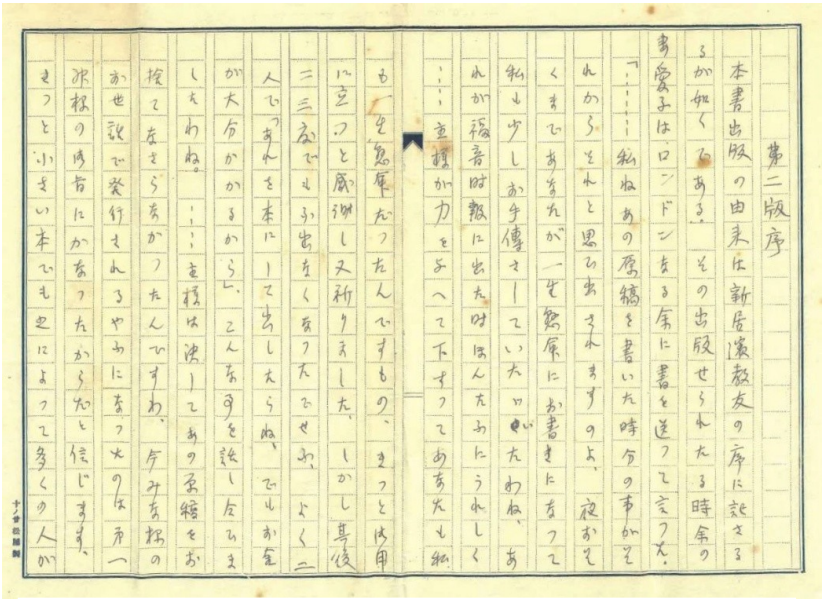
『今井館ニュース』発行趣旨

NPO法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。

矢内原資料について　（その２）

藤田 豊

矢内原資料整理（『今井館ニュース』61 号掲載「矢内原資料について　（その 1）」参照）の過程で、最も印象に残ったものは矢内原忠雄の『基督者の信仰』第二版序の原稿である。



矢内原忠雄『基督者の信仰』第二版序の冒頭部分

「本書出版の由来は新居浜教友の序に記されるが如くである。その出版せられたる時余の妻愛子はロンドンなる余に書を送つて言つた

『……私ねあの原稿を書いた時分の事がそれからそれと思ひ出されますのよ、夜おそくまであなたが一生懸命にお書きになつて私も少しお手伝いさしていただいたわね、あれが福音時報に出た時ほんたふにうれしく……主様が力を与へて下すつてあなたも私も一生懸命だつたんですもの、きつと御用に立つと感謝し又祈りました…』」

（仮名遣いは自筆原稿のまま）

この第二版序文の原稿は、留学中に出版された彼の信仰上最初の出版物『基督者の信仰』刊行に妻が寄せた手紙の引用から始まり、亡妻への愛に溢れる内容であった。

2 年間の留学を終え、妻との再会を楽しみに船中で讃美歌「清き岸べに」を歌いながら帰国したところ、妻は重病であり、帰国後 16 日の看病の後、召された経緯が書かれている。矢内原資料にはこの原稿内の引用以外、愛子の忠雄宛手紙は一通も残されていない。文末に、この改版の発行は内村鑑三の勧告に従って用意したことが書き添えてある。さらに改版には「ラザロの復活（妻の死後ヨハネ伝第十一章を読む）」という長文の附録も用意された。序文原稿の執筆日は「一九二三年八月二十日彼女埋骨の日」になっている。

内村は 1912 年、娘ルツ子を亡くした後、「娘ルツ子紀念として此書贈呈す」という献辞と彼女の写真を巻頭に印刷した『貞操美談ルツ記』の第 5 版を出版し、知人に贈っているので、矢内原にも紀念の本の発行を勧めたのであろう。

私はさっそくこの改版をできるかぎり探したが見つからなかった。現存する第二版（1931）序文にはこの文章は載っていない。矢内原の長男伊作は『矢内原忠雄伝』で、「それにしても、後年の忠雄があれほど膨大な量の文章を書きながら、先妻について全く触れなかったということは奇異である」（362 頁）と述べている。伊作はその理由を推測し、「後の妻への遠慮」でも「子供への配慮」でもなく、「筆舌に上せるにはあまりにも痛切な思い出を抱き続けていたからだろう」と想像している。

伊作が父の書いたこの序文を読んでいれば評伝の内容は変わっていただろう。『矢内原忠雄伝』に書かれている、多摩墓地の墓碑に刻んだ「清き岸べに」が、矢内原愛子との思い出の歌であるという伊作の想像も、この序文を読んでいれば確信に変わったであろう。伊作も知らないのなら、この第二版は出版されなかった可能性が高い。やはり矢内原忠雄は内村の勧告に従うことなく、紀念出版をしなかったのであろう。

彼は『基督者の信仰』「三版序」で「本書の刊行は、第一版（1921） 第二版（1931） 第三版とも私自身の発意から出たものではなく、皆友人の愛から、その伝道心から為された仕事である。此の書が幾許なりとも世の慰めとなるを得ば、その報償（むくい）は凡て之等友人の上にあらんことを。1933 年２月」と記している。「三版序」の内容を吟味すれば、伝道のための書である『基督者の信仰』を、妻と自己との個人的な思いに利用すべきではないと悟り、追悼紀念の出版を思いとどまったことになる。先に引用した愛子の手紙の「主様が力を与へて下すつてあなたも私も一生懸命だつたんですもの、きっと御用に立つと感謝し又祈りました」という思いにも応えることになる。そうした矢内原忠雄の判断で改版の出版をとりやめたのではなかろうか。

内村鑑三の『貞操美談ルツ記』ルツ子紀念出版

（山岸家寄贈図書）

今井館教友会の前理事長西永頌氏は幻の二版序文をご覧になり、「実に貴重な資料と思います。先妻愛子の長男伊作（すでに故人）は幼いころ愛子が亡くなったので後妻の恵子に育てられました。愛子について矢内原は伊作に全く語らず伊作が自分の母が愛子だと知ったのは旧制中学を卒業し高等学校に入学する折であったそうです。伊作は愛子の面影を知りたく愛子の妹の常子(私の母)の所に訪ねて来たとのことです。この序文と付録を伊作が見たらどんなに喜んだかと想像します。その様なことがあり、愛子についてはほとんど知られていません。有難うございました」という感想を寄せて下さった。膨大な資料の中から、この原稿に出会えたことに、私も感謝している。

（ふじた ゆたか　今井館教友会常務理事）

安曇野夏の集い

鳥居 祝子

木々に囲まれた鳥居山荘

安曇野市穂高の地は、内村鑑三に師事した井口喜源治が研成義塾を築き、キリスト者として教育に心血を注いだところで、今も井口喜源治記念館は残されてあり、その流れを汲んだ方々が孜々として生きておられます。その恵まれた緑豊かな地に名古屋聖書研究会員の森の家があります。ここで聖書を学び、古典に親しみ、さらに講師の方々のご専門分野や「十八番」（お得意）のお話を伺いたいとの願いのもと、夏のリトリートの会が開かれてきました。

この発想の起点は1961年、アマースト大学留学から帰国された新井明先生が、名古屋大学に助教授として着任されたときに遡ります。名古屋聖書研究会の若者数名が新井先生の宿舎を訪ね、読書会をして頂きたいと申し出ました。新井先生は快くお引き受けになり、聖書と古典を中心に月一度の読書会が始まりました。先生は当時まだ29歳という若さ、先生と年齢がいくつも違わない学生たちは、読書会で発表し、交歓し、ここで若き日の礎が築かれたようです。この会は「エッサイ会」と名づけられ、新井先生の7年間の名古屋大学在任中続けられました。

ここでの主に在る交わりの恩恵は当時その学生の一人であった夫・鳥居勇夫の心にも深く刻まれ、40年の歳月を経て2001年に「安曇野夏の集い」として再現されました（注）。最初の年の出席者は名古屋聖書研究会関係者数名と、穂高の柴野道夫様（2023年1月召天）のみでしたが、翌年からは柴野様のお声がけで谷口透

月本昭男先生の講義（2019年）

様はじめ地元の方々も集まられ、会場作りに至るまで諸々ご協力くださいました。

2004年ふとしたきっかけで聖路加国際病院の日野原重明先生（当時93歳）を迎え、ウイリアム・オスラーの『平静の心』についてお話を伺いました。先生は松林の中の静かな時間を喜ばれ、「日頃“流れ”の中にいると自分の流れでしか物事が見えない、少し淀みの中に退いて人と言葉を交わし、交わりが深められることで自分が新しく創り変えられていく」と言われ、参加者同士語り合う時間と静かな早天祈祷会を愛されました。それ以来13年間、天に召される一年前までこの会に欠かさず参加されました。

日野原先生がご自分で翻訳されたウイリアム・オスラーの『平静の心』を新井先生に贈呈されたことがあります。新井先生は一週間も経ぬ間に通読、英文学者の立場から校正メモを作り、「私が直接お渡しするよりは、あなたから届けてください」と、私に託されました。ちょうどクリスマスに近い時でしたので、私は「新井先生からのプレゼントです」と、日野原先生にお送りしたら、「いやぁ最高のプレゼントですよ！」とたいへん喜ばれました。新井先生は日野原先生が世話役だった「オスラーの会」が聖路加病院で開かれた際に、トマス・ブラウンの『医師の信仰』について講演をしておられます。

日野原先生は2017年7月に105歳で、新井先生は2023年10月に91歳で天に帰られました。

（注: 20年余に及ぶ安曇野夏の集いの記録は『安曇野講義録』として今井館に所蔵されています。）

（とりい のりこ　名古屋聖書集会）

柳父圀近先生哀悼

千葉 眞

柳父圀近（やぎゅう くにちか）さんは、癌の転移が見つかり、昨年末に緊急入院されておりましたが、本年、2 月 18 日に息を引き取られたという悲報を受けとり、愕然といたしました。昨年春の内村研究セミナーにもご参加くださり、いつものお元気な発言もされておりましたので、耳を疑いました。かほる夫人のお話では、昨年秋まではお元気でおられたとのこと、ご永眠はにわかには理解できませんでした。享年 79 歳でした。

私は柳父さんとは同じ政治思想史の分野、さらに内村鑑三と無教会の研究において共に長年の交わりを頂戴いたしました。私自身、三歳下で弟分の立場で、いつも柳父さんとお呼びし、しかし師事するような気持ちで接しておりました。そのような関係で 40 年以上にもわたる親しい交わりを頂戴してまいりました。柳父さんは研究誌『内村鑑三研究』の編集委員を 2015 年から 2022 年まで 7 年間お勤めくださり、その際、楽しく編集などの仕事をご一緒させていただきました。

柳父さんはいつもたいへん親切で相手の立場に立って発言され、また対応されているのに感銘を受けておりました。きっとご自分の学生、院生さんたちに対しても同じようなご指導をされ、接しておられたのではなかったかと想像いたしておりました。告別式では仙台在住の佐藤司郎先生が司式をしてくださり、東北大学での初期の教え子のお一人、豊永敏久先生が弔辞を述べてくださいましたが、柳父さんとかほる夫人はお家を解放され、よく教え子の皆さんをお家でもてなし、学生時代、卒業後も親しい交わりをお持ちだったようで、たんに学問上の師弟関係というよりは、生涯の友人として接しておられたことを知り、やはり柳父さんらしいなと感銘を深めた次第です。柳父さんのお人となりを偲んだ次第でした。

柳父さんとは個人的によくお会いし、長電話でお話をし、また数人でのインフォーマルな会合で彼独自の考え抜かれた話をよくうかがいましたが、それはいつも大きな学びでありました。柳父さんは政治学的には丸山眞男先生、経済学では大塚久雄先生と中村勝己先生を尊敬し師事され、先生方と貴重な交わりを持たれておりました。ある時、大塚先生をお訪ねするけれど、「千葉さんも来る？」と誘われ、ご同道し、楽しい訪問と語らいを持たせてもらったことが思い起こされます。

柳父さんの研究は海外の思想家や論者については、マックス・ウェーバー、エルンスト・トレルチ、カール・バルト、パウル・ティリッヒなど、また日本の思想家では、内村鑑三、矢内原忠雄、大塚久雄、丸山眞男とその影響下にある人たちに焦点が当てられており、きわめて魅力的で貴重な思想史的研究を積み重ねてこられました。東北大学では、宮田光雄先生のご指導の下、お仲間の研究者たちと一緒に共編著『ナチ・ドイツの政治思想』（創文社、2002 年）を執筆されておりました。その他、また単著としては『エートスとクラトス』（創文社、1992 年）、『政治と宗教――ウェーバー研究の視座から』（創文社、2010 年）、そして『日本的プロテスタンティズムの政治思想――無教会における国家と宗教』（新教出版社、2016 年）など、力作を次々と刊行されました。

柳父さんに出会った人たちは、皆さん、柳父さんの誠実で温かなお人柄に強く印象づけられたのではないかと思います。私もその一人です。その語る言葉と発言、その態度と姿勢、その行動、それらはすべて柳父さんがどんな人であるのかを現し、開示してくれました。柳父さんは、対話をつうじて人生について、学問について、誰にでも豊かな示唆を与えてくれていました。柳父さん、天にあって安かれとお祈り申し上げます。

（ちば しん『内村鑑三研究』編集委員）

第 39 回内村鑑三研究セミナー報告

2025 年 6 月 14 日に第 39 回内村鑑三研究セミナーを立教大学（池袋キャンパス）にてハイブリッド（対面＋遠隔）で行った。講師が下記のようにご自身の講演内容をまとめてくださった（報告順）。古賀氏は『近代日本プロテスタント史の政治思想――内村鑑三、植村正久、海老名弾正の足跡』（2024 年）の論考を基盤に、デモクラシーをめぐる再臨運動期の言説を読み解いた。千葉氏は晩年内村の「哲学熱」を贖罪論（万人救済論）の課題解決に向けた営みとして解釈した。ご講演が喚起した広範な議論では、今後の内村研究に関する貴重な指摘が与えられた。

（ゾンターク・ミラ　『内村鑑三研究』編集委員）

古賀敬太氏「内村鑑三の再臨運動と大正デモクラシー」

1918～1919 年にかけて再臨運動を展開した内村鑑三に対して、再臨運動に批判的であった海老名弾正は内村の終末論的な再臨論をデモクラシーを妨害するものとして厳しく批判した。また当時の日本基督教会の指導者であった植村正久も再臨運動には冷淡であると同時に、デモクラシーの進展や国際連盟の強化による世界平和に期待した。逆に内村は、世界の終末や再臨を強調することによって、デモクラシーや国際平和の潮流に背を向けたと批判された。この批判は正当であるのか。報告では、内村の民主主義批判は、社会進化論的オプティミズムに対する終末論的な批判であり、同時にデモクラシーを神の国の実現とみなす主流派教会に対する批判でもある事を明らかにした。同時に内村の再臨論は、政治からの逃避をもたらすものではなく、「下から平和の備えをする」原動力たりうる事を主張した。

（こが けいた　大阪国際大学名誉教授）

千葉惠氏「内村鑑三晩年の『哲学熱』と真理の楕円説――純福音の析出をめぐって」

内村は「絶筆」で「信仰に手段方法は何もない」により「羅馬書」の信仰の義認「条件」説を克服した（355 号）。四世紀流布版以来「(「神の義」とその啓示の媒介である「イエス・キリストの信」に）分離がない」(3:22)という神の自己理解が「(信徒間に）区別がない」と人が持つ信仰の次元で誤訳されたために彼は正鵠をえず、福音即十字架の過去完結「原理」と純信頼「事実」に分け神の前と人の前の「ロゴス（理）と働き」(15:18)の分節に失敗した。絶筆では「神が人を求む」は自己完結的な「神の知恵と認識」(11:33)を表現し「神が備え給ひし救ひの途」が「イエス・キリスト」に帰属した「信」であり、この「恩恵に応ずる人の信仰」は神の不分離な信義に相応しい人の信仰である。恩恵の救いの途に「唯信ず」「他に途がない」「自己を信す事」により不分離な上下の同一途を捉えた。この神の信義と神の前の「イエスの信に基づく者」(3:26)の信が楕円の二焦点を形成し義認の軌道を描く。

（ちば けい　北海道大学名誉教授・登戸学寮寮長）

学園・学寮だより

愛農学園

新入生の田植え

4 月 10〜11 日の誓約式･入学式には新入生 25 名（女子 11 名、男子 14 名）を迎えました。十数年ぶりの定員入学です。農家から 5 名、関係者の子女から 5 名、クリスチャン家庭からは 2 名が 1 年生になりました。例年新入生の 8 割以上が初めて聖書を手にします。初めて手にする新入生の多くは前向きで朝拝、聖書授業、昼食の祈り、イースター礼拝、夕会、賛美等に参加します。授業で取り上げている「山上の教え」（マタイによる福音書 5 章〜7 章）はクラスメイトとのディスカッションを通して真摯に向き合い、期末レポートも一生懸命取り組んでいます。イエスの言葉は新入生の良心に語りかけています。

4 月 16 日に専攻科入校式があり 3 名の 59 期卒業生が 10 ヶ月間の農家研修をメインとする農業専攻科に進みました。二人は独立学園の卒業生が立ち上げた岐阜県のゴーバルとその農家で研修し、一人は今年初めて専攻科生を受け入れるアジア学院で研修をします。アジア学院とはキリスト教精神と有機農業を共有し交流を深めています。今年の職員研修はアジア学院前校長による非暴力トレーニングを複数回行います。

7 月 3 日新女子寮新築工事の定礎式を行いました。女子の人数が増えており定員 36 人の新女子寮を 60 周年記念事業として数年がかりで計画してきました。2 年前食農教育棟を立てた地元の建築業者による施工と愛農の本館と森館を手がけた野沢正光建築工房による設計で来年 2 月完成予定です。総事業費は 24 千万円ですが、募金と補助金、学校資金と借金をもちいて費用を捻出し、将来の良心と平和を求める農業女子教育に役立てればと祈念しています。

（校長　村上守行）

独立学園

この 2 ヶ月を振り返ります。

5 月 26 日には創立記念式を実施しました。77 年間の歩みを振り返り感謝を新たに、78 年目を歩み出しています。記念講師には、本校 30 期卒業生で新潟県敬和大学学長の金山愛子先生をお招きしました。「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。」と題して、在学中のエピソードを含め生徒に励ましの言葉をいただきました。

7 月 8 日〜9 日　一年クラスキャンプ
カジカ滝にて

5 月 27 日~30 日は、農繁作業を行い、近隣農家へ田植えの手伝いに行くなど春の農作業を体験する時となりました。6 月 7 日~8 日は合同保護者会が開かれました。コロナ禍以降、全学年の保護者が来校しての会が、昨年度から再開しました。今年は保護者との小グループによる話し合いなども企画されました。6 月は人権週間がありました。今年度のテーマは「戦争と人権」とし、朝の礼拝では 3 人の先生が在日コリアン、

日の丸・君が代、新潟水俣病について話されました。6 月 12 日~13 日にはガザで長く活動され、『ガザに生きる』などの映画を作られた土井敏邦監督をお招きしました。自分がなぜガザに関わることになったのか、戦火の下で暮らしている家族との出会い、空爆による家族の死など、その場所で生きて死んでいっている方の具体的なお話を伺いました。ここ叶水とガザの距離は縮まらないですが、共感することは出来ることを学ぶ時でした。

この夏は、8 月に沖縄平和の旅を予定しており、7 月 25 日~27 日には「第 40 回叶水夏の学校」を実施します。テーマは「幸いなるかな、平和を実現するものたち～「一人」から始まる～」としました。平和について考えることの多い日々が続きます。　　（校長　後藤 正寛）

愛真高校

愛真 1 年広島平和学習

昨年度から、教育の軸となる本校の社会的使命は何かについて話し合いを重ねてきました。教育目標やこれまでの教育実践を踏まえ、教職員の意見を集約して「平和を創る人を育む」にまとまりました。これは生徒の進路を限定しようとする枠組みではありません。これを軸として、生徒が自分らしく成長し、置かれた場で「平和を創る人」として、その人らしく歩むことができることを願って、今後の学校改革を進めていきたいと考えています。この社会的使命を実現するため、教育目標にある「豊かな知性」とは何か、「確固たる良心」を育むにはどのようにしたらよいのかを、具体化していきたいと考えています。

本校のクラス行事で平和学習は大きなウエイトを占めています。1 年は 5 月に原爆が投下された広島を、2 年は 10 月に軍港としてアジア侵略の拠点となった呉、毒ガスを製造していた大久野島を、3 年は 6 月に地上戦が激しく行われ、今も在日米軍基地の 7 割が集中する沖縄を訪問しています。

訪問前には事前学習を行い、訪問先では平和を考えるための史跡や資料館の見学を行います。しかし何より大切なことは「人」に会うことです。出会う方が背負っておられる思い、語ってくださる言葉の重み、その人の生き様に触れ、生徒は平和を創ることが自分事となっていくように思います。現地では、お話をしてくださる方にお礼の合唱をしています。沖縄では毎年、7 泊 8 日の旅でクラス合唱が変化していくのを感じます。今年引率した音楽教員からは、「現地でお礼の合唱をするたび、語ってくださる方の言葉や思い、その場所に刻まれた歴史に応答しようとするような感覚があり、その思いを分かち合う時間が流れていたように感じた」と報告がありました。　　（校長 栗栖 達郎）

登戸学寮

2025 年度学寮は 14 人の新寮生を迎えて、37 人による共同生活が営まれています。入学や進学から 3 か月が経ち、落ち着いてきた雰囲気のなかにも、若者たちは新たな挑戦を試み活気があります。朝礼拝は創世記が終わるところです。約 20 人が朝 7 時に集いパイプオルガン専攻生によるオルガンの前奏、賛美歌と続き、担当寮生が聖書箇所の感想とともに、多様な活動そして出来事等を報告し、最後に後奏を聴きます。創世記の物語が興味深いこと、また留学生 4 人が心のこもった深いメッセージを伝えてくれることもあり、寮生の心を清め、高め、一つにする拠り所となっています。日曜聖書講義はマタ

イ福音書ですが、欠席の場合当該箇所へのコメントを予めラインする或る寮生提案の新趣向のもと、講義の最初に紹介することにより、話の導入として聞き手も身近なこととして入り込みやすいことが分かり喜んでいます。

筏練習後夕暮れの多摩川土手にて

7 月 20 日に狛江市主催の 90 チームによる玉川筏レースに 3 艘 15 人が参加します。タイタニック、バルチックの既存筏とは別に、今年エポキシ樹脂で固めた木製高速艇ダイヤモンドプリンセスを建造し、優勝をめざしています。既に 4 回多摩川に繰り出し、岸辺で組み立て、おだやかな澄んだ川面に整った波をたてています。川の涼風が心地よく青空が皆の掛け声に溶けこんでいきます。「かくして、キリストにある何らかの援け、愛の慰め、霊の交わり、憐み、そして慈しみがあるのなら、汝らわが喜びを満たせ。それは汝らが同じ愛を持つことによって、魂を共に通わせることによって、一つのことを思慮することによって、同じことを思慮するに至るためである」（ピリピ 2:1）。

（寮長　千葉 惠）

春風学寮

「多神教は否定されるべきなのですか」――先日、日曜集会のときに、カインの末裔のことを扱った。≪カインの末裔は都市国家に代表される文明を築く役割を果たしていき、レメクに代表されるように神を畏れぬ者となっていった。他方で、セトの末裔たちは文明とは異なる地方で、「主の名を呼ぶ」ような信仰を持つようになった。唯一神を求める本当の信仰は、頼るべきものがほとんど何もない、辺境でこそ生まれる≫という話をした。その後で私はうっかり、文明が生まれるような豊かな地域では、人間の欲望を投影した多神教しか生まれないと言ってしまった。

それが一人の寮生の逆鱗に触れた。彼は熱心な神道の信奉者で、「多神教が人間の欲望から生み出されたとは何事か！」と詰問してきたのだ。「そもそも聖書は一切多神教を認めないものなのでしょうか。そして寮長も一切多神教を認めない人なのでしょうか。もしそうだとすれば、聖書も寮長も他者の信仰を尊重しない排他的な存在であり、そのような態度は愛の精神に全く反する態度なのではないでしょうか」と彼は私に詰め寄った。

この質問に私はさすがにたじろいでしまった。他の寮生たちの間にも今までにない緊張感が走った。私はこの難問に頭脳のあらゆる限りを投入して一先ずこう答えた。≪旧約聖書では、「わたしをおいて他に神があってはならない」、「一切偶像を作ってはならないし崇めてはならない」という二つの掟が最も重要な掟であった。しかし新約聖書においてはそうではなくなった。イエス・キリストは自分のように隣人を愛せと言い、その延長線上で敵をも愛せと言った。この立場からするならば、新約聖書は多神教を信じる人たちを決して否定してはいない。むしろ多神教を信じる人たちの中にも信仰の芽生えを認め、彼らを尊重するはずだ≫と。≪そして私もそのような新約聖書の立場と同意見である≫と。そして≪その立場こそが神の御心とも一致しているであろう≫と。

この意見を聞いた彼は、心より納得したようで、「先ほどはきつい言葉を使って詰問してしまい申し訳ありませんでした」と謝ってきた。なぜだかわからないが涙が目に滲んだ。これこそ無教会の生み出した春風学寮である。

（寮長　小舘 美彦）

「今井館文化講座　2025 年度前期」ご案内

主題　　矢内原忠雄の信仰と生涯
講師　　川中子義勝（ドイツ文学・キリスト教思想史を研究、東京大学名誉教授、矢内原忠雄の設立した東大聖書研究会前顧問、無教会研修所聖書学習講座講師、今井館教友会副理事長、日本詩人クラブ顧問）
日時　　第 1 回　2025 年 8 月 2 日　午前 10 時～11 時半　「若き日々から帝大辞職まで」
　　第 2 回　2025 年 8 月 9 日　午前 10 時～11 時半　「帝大辞職から敗戦を経て」
会場　　今井館集会室 2・3 （対面のみ）
主催　　今井館教友会　担当：上原和幸、三上由美子
資料代　各回 1000 円、当日会場でお支払いください。
事前申込必要　申込用グーグルフォームがあります。お問合せは今井館の Tel 03-6277-5669 まで（月・水・金）

「第 46 回 内村鑑三研究会」ご案内

日時　　2025 年 9 月 15 日（月曜日/敬老の日） 14 時～17 時
メッセージ　内村鑑三と無教会に関心のある皆さまのご参加をお待ちしております。
会場　　今井館聖書講堂
講師・演題　　森山浩二氏　『韓国無教会双書（全 9 巻・別巻 1）』（2024 年）刊行について
　　千葉　眞氏　内村鑑三の十字架の信仰 ― 贖罪信仰とその特質
主催　　『内村鑑三研究』 編集委員会
参加費　　1000 円
申込方法　　対面での参加の皆さまは申し込み不要です。会場に直接お越しください。ズーム方式での参加を希望される皆さまは、9 月 12 日までに下記のメールアドレス宛お申し込みください。折り返しログイン URL と、資料・通信費振込口座情報をお送りします。E メール　千葉　眞 <chibas@icu.ac.jp>

「第 37 回無教会全国集会 2025」ご案内

議長　坂内宗男

開催日　　2025 年 11 月 1 日（土）13：30～17：30　　2 日（日） 9：30～17：00　　※二日間にわたり開催します。
会場　　今井館聖書講堂
主題　　「真理への道 ― 破局の中の希望」
主題聖句　　「イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。『わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。』」（ヨハネ 8：31-32）
聖書講話　　「真理の道 ― 破局の中の希望」(仮題) 中村頌
主題講演　　「真理への道 ― ただし破局を通して」福嶋揚　　特別講演　「破局と救済 ― 再臨の風景」小林孝吉
発題　　近藤風人　　千葉雄　　安達正敏
音楽の時間「バイオリンとリードオルガン & ピアノによる賛美の調べ」土屋真穂、上村篤子
参加方法　　会場参加のみ（交わりを大切にするために会場参加のみといたします。オンライン参加は行いません）
問い合わせ　　無教会全国集会準備委員会　担当：荒井克浩、廣瀬治基　　E メール　mzenkokusyu@gmail.com
　　Tel・Fax 03-6277-5669（今井館への Tel は月のみ）　　090-7262-2349（荒井）
申し込み　　『今井館ニュース』62 号同封の「開催案内」および今井館のホームページをご参照ください。

「無教会研修所キリスト教講演会」ご案内

日時　　2025 年 11 月 22 日（土曜日） 14 時～16 時
参加方法　　会場参加（抽選で 30 名）、またはオンデマンド配信（2025 年 11 月 24 日から 1 週間）のいずれか選択
講師　　古賀敬太氏　（大阪国際大学名誉教授）、著書に『矢内原忠雄とその時代 ― 信仰と政治のはざまで』（風行社、2021 年）、『近代日本プロテスタント史の政治思想』（風行社、2024 年）ほか。
演題　　「危機の時代における預言者矢内原忠雄 ― 矢内原の聖書講義に見る時局批判」（仮題）
会場　　今井館聖書講堂
聴講料　　1000 円（学生 500 円）
問合せ・申込み先　　無教会研修所事務局　E メール　seishokoza@mukyokaikenshujo.com

各地からの報告

■キリスト教独立伝道会

○総会 4 月 29 日 (火)13:30～14:30 オンライン開催

○公開講演会 講師:那須容平 赤塚牧 濱田淳 小林典子

テーマ:「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても、励みなさい（2 テモテ 4：2)」

■北陸

○金沢畝田聖書集会

6 月 15 日崎村恒夫は次の様に述べた（エゼ 38:1～17)。「今は教会時代であるが何の前兆も無しにキリストの空中再臨が起きる。しばらくして 7 年間の艱難時代が始まる（中略)。現在のイスラエルはロマ書 11:28 の「福音によればイスラエルはあなた方のゆえに神に敵対しているとの状態で、真のイスラエルとは言えないが選びによれば、先祖たちのゆえに神に愛されている者である」。

場所：金沢勤労者プラザ（金沢市北安江 3–2–20)

連絡先:山下　glory@m3.spacelan.ne.jp

■近畿

○第 21 回近畿地区無教会キリスト集会

日時：2025 年 5 月 10 日(土) 13 時～11 日(日) 13 時

会場：関西セミナーハウス京都市左京区一乗寺竹ノ内町

主題：「福音の希望」コロサイの信徒への手紙に学ぶ

開会礼拝：木村護郎クリストフ

主日礼拝：吉村孝雄・小舘美彦　　コロナ明け 2 年目第 21 回の集会で、約 40 名が参加しました。「御父はわたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださいました」(コロサイ 1:13)。神様の創造と和解（救済）ーキリストを通して造られキリストを通して救われるという聖書の真理ーを集められた者が分かち合い恵みと平安に満たされた集会となりました。

■四国

冬期聖書集会 徳島にて キリスト教独立伝道会主催

日時：　2025 年 1 月 4 日（土）から 5 日（日）

会場：　徳島聖書キリスト集会集会場 対面/スカイプ

テーマ「小さき者へのまなざし」　1 日目は講話リレースタイルでミカ書を読んだ。夕食後は祈りの会。2 日目は午前と午後の 2 回吉村孝雄さんに講話をして頂いた。二日とも食事を共にして打ち解け、終始明るく朗らかな雰囲気に包まれた集会であった。

■九州

○福岡聖書研究会・特別集会（Zoom 同時配信）

①5 月 25 日（日)、小林孝吉氏（今井館監事）を迎えて「救済の風景」と題して学びました。

②6 月 29 日（日)、香西信氏（岡山聖書集会）を迎えて Zoom での講話により「主の祈りを学ぶ」と題して学びました。

③7 月 27 日（日)、月本昭男氏（経堂聖書会）を迎えて Zoom での講話により、「苦しむ人への良き知らせー第三イザヤの思想と信仰ー」と題して学びました。経堂聖書会他多数の Zoom 参加がありました。

定期集会・地域別特別集会等案内

○みんなのバイブルキャンプ

日時：2025 年 8 月 22 日（金）13:30～24 日（日）13:00

会場：東京 YMCA 山中湖センター(南都留郡山中湖村)

テーマ：「光の子」

講師：有賀実男 香西信 小舘美彦

申込 小舘知子 kodatetomoko@gmail.com

スタッフ：土屋真穂 木村恵

○堤先生召天 20 周年記念講演会（主催：キリスト教横浜集会/東京聖書集会　後援：キリスト教独立伝道会）

日時：10 月 5 日（日）会場：横浜市内（予定）

講師：有賀実男、多田義国　　演題：未定

●山形

○山形聖書集会　代表 白崎良二

聖日集会は原則毎月第 2・第 4 日曜、10～12 時

夏期・冬期（8 月・1～3 月）は休会

会場：遊学館、山形テルサ、文翔館

聖書講話：会員順番に担当

○米沢聖書集会

日時：毎月奇数日曜日、10 時～12 時半

場所：会員の個人宅（米沢市内)

聖書講義：助川暢（基督教独立学園高等学校元校長)

連絡先：富樫徹

●茨城

○水戸無教会聖書集会

月例集会　10:30～12:00

第 2 日曜（預言書を学ぶ　安昌美)

第 4 日曜（ヨハネ黙示録　菊池信生)

12 月第 3 日曜はクリスマスの会として、午前中は松本智昌さんの講演と、昼食後は午後 3 時まで感話会をもちます。このため第 4 日曜（12 月 28 日）は休会。

会場：南町コミュニティホール　参加費 300 円

バス停「南町 2 丁目」下車、徒歩 3 分

連絡先：星野光利

●栃木

○とちぎ聖書研究会

テキスト: 白井きく著『ブルトマンと共に読む　ヨハネ福音書』（白順社)

会場：栃木県勤労者福祉センター

時間：午前 10 時 30 分～正午

会費：一般 1000 円、学生 500 円

開催等詳細は村松梅太郎まで

●千葉

○千葉聖書集会

① 毎月第 3 日曜日は午前 10 時～12 時（8 月は休会)

千葉市生涯学習センターで主日礼拝。新約聖書を学ぶ。

② 毎月第 1 日曜日 午後 1 時～3 時半（8 月は休会)

会員の私宅で旧約聖書を読んでいる。
連絡先：広瀬敏行

○逆井（さかさい）聖書集会

毎月第2 土曜日 午前10:15～11:45
その後全員参加の談話会12:30 頃まで。
会場：松戸友の会友の家
隔月ごとにエレミヤ書、ヨハネ福音書を学んでいます。
連絡先：西永頌 Ttatau-n@td6.so-net.ne.jp 8 月は休会

●東京

○高円寺東集会

礼拝：第2 と第4 日曜日の11 時から1 時頃まで、「ガラテヤ書」(元高円寺東教会牧師小西芳之助)、または「黙示録」(石館守三) の講解説教録音テープを聞いて礼拝。昼食を共にします。参加費1,000 円。8 月は休み。
会場： 今井館第1 集会室（ズーム併用）
連絡先：山口周三 shuzo_yamaguchi@tmtv.ne.jp

○無教会自由が丘集会

毎月第3 日曜日、10 時～12 時、対面とオンラインのハイブリッド、メール配信にて開催しております。
2025 年度は「創世記」を学んでいます。
場所：成城ホール会議室（成城学園前駅）、もしくは「多目的貸しスペース中根クラブ」（都立大学駅）
連絡先：西村敏樹 bpnyx556@ybb.ne.jp

○『塚本虎二著作集』読書会

毎月第1 水曜日10 時半から、今井館第1 集会室で、『塚本虎二著作集』第7 巻（聖書知識社）を輪読。8 月休み。9 月は211 講、10 月は212 講、以下1 講ずつ。連絡先：山田光子 higashino2usagi@au.com

○駒込キリスト聖書集会 主宰: 荒井克浩

聖日礼拝：毎週日曜聖日10 時～12 時
場所：今井館 第2・3 集会室 ※遠隔の方Zoom 参加可
聖書講話：「ローマの信徒への手紙」の連続講解
（お願い）今井館の入り口はセキュリテイがかかっているので9 時30 分以降に入口脇インターフォンで「203」「呼び出し」を押してください。
連絡先：荒井 k_arai2005@ybb.ne.jp
HP：集会名で検索可

○国立（くにたち）聖書研究会 Zoom による集会

毎月第4 日曜日 10 時半～12 時。使徒行伝（新約）とイザヤ書（旧約）を交互に読んでいます。
連絡先: 加納孝代 takayo@sepia.ocn.ne.jp

○無教会新宿集会

毎週日曜日午前10:00～11:45
原則として旧約聖書と新約聖書を交互に学んでいます。
会場：家庭クラブ会館（渋谷区代々木3-20-6）
JR 新宿駅南口より徒歩7～8 分
連絡先: 島 創平 cbz04630@pop21.odn.ne.jp

●神奈川

○キリスト教横浜集会

主のお導きのもと、会場は関内の「技能文化会館」又は南太田の「フォーラム南太田」にて、午前10 時から日曜礼拝を開催致しております。安川文朗兄には月一度、Zoom による聖書講話をお願い致しております。8 月の集会は近年の熱暑の回避及びキリスト教独立伝道会の「みんなのバイブルキャンプ」への会員の参加勧奨等の為に全てお休み致します。 須川真明

●山梨

○南アルプス聖書集会

月2 回加茂悦爾宅で、第2 日曜は列王記下を、第4 日曜はルカ伝を読んでおります。集会は昭和35 年に始まりました。2002 年から出している『南アルプス集会会報』は今年4 月で458 号を数えました。現在加茂悦爾は94 歳ですが、許される限り集会を守りたい所存です。
加茂悦爾・昌子

●新潟

○新潟聖書研究会

日曜礼拝は対面（新潟市西区小針駅前の葡萄の家）とZoom 併用のハイブリッドで、毎日曜日午前10 時から12 時に行っています。第1 日曜日はホセア書、第2・3・4 日曜日はヨハネ黙示録を学んでいます。熊本,静岡,石川県からの参加もあります。参加希望の方は代表の二七教会までご連絡下さい。27kyoukai@gmail.com（大西洋司）

●北陸

○金沢畝田聖書集会

毎月第1、第3 日曜日 10:30～12:00
第1 は使徒言行録を山下が、第3 は崎村恒夫・広村暁が交代で担当し、聖書のメッセージを取り次ぎます。
会場：金沢勤労者プラザ 金沢市北安江3−2−20
連絡・問合せ先: 山下士郎 glory@m3.spacelan.ne.jp

●静岡

○第60 回 静岡県下無教会合同集会

日時：2025 年10 月19 日(日)10 時半～14 時
講師：武井陽一
会場：マークス・ザ・タワー1905（清水駅西口より徒歩3 分。静岡市清水区辻1-2-1-1905）
共催清水聖書集会 連絡先：西澤正文
浜松聖書集会 連絡先：武井陽一

○清水聖書集会 連絡先： 西澤正文

主日礼拝: 毎日曜日10 時～11 時半
会場：マークス・ザ・タワー1905
清水駅西口より徒歩3 分 静岡市清水1-2-1-1905

○浜松聖書集会 連絡先：武井陽一

日時：第3 日曜を除いた日曜日 10～12 時
会場：クリエート浜松22 号室など

●中京

○名古屋聖書研究会

毎日曜日10 時～11 時半 但し第5 日曜日は休み
会場：名古屋市市政資料館
連絡先：三浦繁則

○名古屋聖書集会

毎月第2、第4 日曜日10 時～12 時
会場：名古屋市千種区猫通2 丁目8 番地の15

ビレッヂ猫ヶ洞 13 号
連絡先: 下澤悦夫（共同世話人）052-913-1441

●近畿

○2025 年　夏期聖書講習会（北白川集会）

日時：2025 年 8 月 22 日、23 日（1 泊 2 日）
8/22(金)13：00 から、8/23(土)12：00 まで
場所：関西セミナーハウス（京都・修学院）
講師：工藤新三「ガリラヤのイエス」
田中晶善「戦後教育改革に関わったキリスト者たち」
坂和優「苦難の僕」
申込期限　2025 年 7 月 5 日（土）までですが、8 月 5 日までであれば参加要領を送付します。
問合先　坂和優

○234 回関西合同聖書集会　　司会：大川四郎

日時：2025 年 9 月 15 日（月・休）10 時～
会場：エルおおさか（府立労働会館）
講師：工藤新三　出エジプト記、他 1 名
午後：昼食懇談会

◆合同集会共同墓地納骨式墓前礼拝

日時：2025 年 10 月 13 日（月・休）午後 1 時～
会場：三笠霊苑（奈良墓地公園内）奈良市川上町 623

○235 回関西合同聖書集会　司会：河野登

日時：2025 年 11 月 3 日（月・休）10：00～
会場：エルおおさか（府立労働会館）
講師：田矢廣司　出エジプト記、他 1 名
午後：昼食懇談後、召天者記念会
問合先　津崎哲雄

●中国

○岡山聖書集会

礼拝（第 2、第 4 日曜　10 時 30 分～12 時
場所：岡山禁酒会館 2 階集会室（岡山市北区丸の内 1-1-15）。希望があればオンラインでの集会参加も可能です。マタイ福音書を学んでいます。信仰のみ（Sola fide）に立ち、聖書を丁寧に学んでいます。聖書講話をもとにした「マラナ・タ」（月刊誌）を発行しています。
連絡先 香西信　　shinkozai@gmail.com

●四国

○愛媛

日時：毎週日曜日 10:00～12:00
場所：松山市民会館 代表者：小笠原 明

○高知

日時：毎週日曜日 10:10～11:30
場所　：高知県婦人会館　代表者：片岡典子

○徳島

① 主日礼拝

日時：毎週日曜日 10:30～12:30
場所：徳島聖書キリスト集会場　代表: 吉村孝雄
参加者: 約 60 名（集会場に 10 名、県内外のオンライン〔スカイプ〕参加者約 50 名）

② **夕拝**（スカイプによるオンライン集会）
日時：毎月第 1、第 3 火曜日 19:30～21:00

③ 天宝堂集会

日時：毎月第３金曜日 20 時～21 時半
場所：天宝堂（はり治療院）徳島市応神町
責任者：綱野悦子

④ **海陽集会**（オンライン）
日時：毎月第 2 火曜日 10 時～12 時
場所：讃美堂　（数度宅鍼灸治療院）海部郡海陽町
責任者：数度勝茂（すどうかつしげ）

⑤ 北島集会（毎月 2 回）
日時：第 4 火曜日 13 時～14 時半（オンライン）
場所：戸川宅　板野郡北島町
責任者：戸川恭子
日時：第 2 月曜日 13 時～14 時半（録音による学び）

●九州

○福岡聖書研究会・定例集会

礼拝：毎週日曜日 10～12 時
会場：アクロス福岡（福岡市中央区天神 1-1）ほか
連絡先: 秀村弦一郎

○福岡夏季聖書セミナー2025

日時：8 月 2 日(土) 13 時 ～ 3 日(日) 12 時
会場：アクロス福岡（Zoom 同時配信）
友寄隆静氏（那覇聖書研究会）の聖書講話（「生きて働く神」、「子供の祝福」）のほか、 土屋聡・めぐみ夫妻（徳島聖書キリスト集会）と中川陽子姉（家の教会マンナミルトス＝Zoom）による感話。夕食会。
主催：福岡聖書研究会
連絡先：秀村弦一郎
後援：キリスト教独立伝道会

○福岡聖書研究会・特別集会

日時：9 月 21 日（日）10～12 時
会場：アクロス福岡（Zoom 同時配信）
講師：澤正幸氏（福岡城南教会牧師）
講話：「主イエスの終末についての教え」

○別府聖書研究会・定例集会
礼拝：毎週日曜日 10～12 時
会場：北的ケ浜公民館（別府市北的ヶ浜町 3-35）
連絡先：中村陽一（

○別府聖書研究会・クリスマス会

日時：12 月２1 日（日）10 時～15 時
講師：梅木龍男氏、秋月正明氏（演題未定）
会場：北的ヶ浜公民館（別府市北的ヶ浜町 5-35）
連絡先：中村陽一

○那覇聖書研究会

毎月第 1 と第 3 日曜日 10:15～13:00 に集会をしています。8 月は夏休みです。
・10 月 19 日の聖書講話は木村クリストフ氏
会場：那覇市安謝の瓔珞。
連絡先：友寄隆静　　tomoyose1947@gmail.com

事務局便り

● 今井館教友会では2025年5月に『内村鑑三のことば』という文庫本サイズの本を発行しました。一般書店でもネット書店でも取り扱っておりますが、今井館の窓口でも一冊 550 円で直接販売しております。とても好評で、買い求めに来られる方が絶えません。詩人の素質を有する内村鑑三が、神に祈り、問いかけ、その導きに従って歩んだ生涯の中から紡ぎ出した言葉は、没後100年の2030年を目前に生きる私たちにも働きかける力を持っていることを感じさせてくれます。

● 今井館教友会では矢内原忠雄をテーマとする文化講座を8月2日と9日の土曜日午前に今井館で行います。詳細は本誌11ページをご覧ください。同じページには11月22日のキリスト教講演会の案内もあり、こちらでも矢内原忠雄が取り上げられます。本誌には前号に引き続き矢内原資料についての報告が掲載されました。期せずしてこのような形となったものです。

● 井上充代様から、井上勇氏旧蔵の塚本虎二の肖像画をご寄贈いただきました。画家は佐藤努です。今井館聖書講堂内、オルガンの上の壁面に懸けてあります。塚本先生の集会に出て おられた方で、「先生に似ている」と言われる方もあれば、「自分の知っている先生とはすこし違う」と言われる方もあります。今井館にお越しの際は聖書講堂へも足をお運びください。

● 2025年6月15日（日）に今井館聖書講堂で今井館教友会の正会員による定時会員総会が開かれました。今年は役員交代はなく、理事長は加納、副理事長は川中子・月本、常務理事は藤田・廣瀬・上原・三上、理事は後藤・矢田部・星住が務めます。監事は大蔵・小林両氏です。今井館の閲覧室・事務室が開くのは月・水・金の週3回です。やや少ないためにご不便をおかけしますが、その月・水・金が国民の祝日と重なる日には開いておりますので、ご活用下さい。

● 今井館の資料の特徴は、無教会キリスト者の代表的存在である内村鑑三と、内村にキリスト教信仰を学んでそれぞれ独自に多様な道を歩んだ人々の、著書や伝記、研究書など約10,000冊が開架書棚に並んでいることと、多数の個人が発行する聖書の研究と伝道のための雑誌約300タイトルが保管されている点にあります。どれでも直接手にとってみることができます。今井館教友会の使命の一つはこれら貴重な資料の保管と保全ですが、近年劣化防止が大きな課題となってきています。一人でも多くの方に「維持会員」となってご支援いただければありがたく思います。

（以上今井館教友会理事長 加納孝代記）

維持会員募集のお知らせ

NPO 法人今井館教友会では会の趣旨にご賛同の方の入会を随時受け付けております。今井館教友会は、維持会員の会費と寄付金によって運営されております。内村鑑三および彼に連なる人々の遺したものを通じ世のために役立つ事を願いつつ鋭意努力を重ねています。2021 年今井館は文京区本駒込へ移転し、財政的にはより安定化しましたが、なおも皆さまのご支援を必要としており、経済的・精神的なお支えを願うものです。この『今井館ニュース』は会員でない方にもお送りしておりますが、ご覧になって本会の活動にご賛同の方にはぜひ維持会員にお加わり頂きたくお願い申し上げます。

もしも、『今井館ニュース』をご必要ないようでしたら、お手数ですがお知らせください。

■会員の特典

1．今井館資料館の図書・雑誌の貸出サービスをご利用いただけます。
(1)宅配便業者との提携による「メール便」利用しています（ただし送料は利用者負担でお願いします)。
(2)蔵書の検索につきましては今井館教友会のホームページの「図書検索」をご利用ください。
(3)雑誌・図書の一部をコピーしてお送りするサービスにも応じております。
(4)詳細は事務局にお問い合わせください。
2．『今井館ニュース』（年 3 回発行）の受領。

■会費

次の 2 通りを準備しています。
1．会員のゆうちょ銀行口座より毎月 27 日に自動的に振り込んでいただく方法。
Ｘ会員　1,500 円（月額）（年額１万８千円）
Ｙ会員　2,000 円（月額）（年額２万４千円）
Ｚ会員　3,000 円（月額）（年額３万６千円）
Ｔ会員　任　意　（月額）
※ゆうちょ銀行の口座をお持ちでない方は口座をお作り頂く必要があります。事務局より必要書類一式をお送りしますので、ご連絡をお願いいたします。
2．ゆうちょ銀行の振込による年 1 回納入
Ａ会員　年会費　1 万円、Ｂ会員 年会費　5 千円、Ｓ会員 年会費　任意

■お申し込み

事務局にご連絡をお願いいたします。申込書（ハガキ）をお送りしますのでご記入の上ご返送ください。

・本号のイラストは、2 頁のグラジオラスと 4 頁のツユクサは秀村弦一郎さん、右のサクランボは、福岡聖書研究会会員の宮崎禎子さんの作品です。

「今井館ニュース」第62号　2025年7月31日
（年3回発行　4月、7月、11月）
発行人：特定非営利活動法人今井館教友会
理事長　加納孝代、副理事長　川中子義勝
編集人：志知道子、玉井慎一、矢田部千佳子、
山下明
〒113-0021　東京都文京区本駒込 6-11-15
Tel&Fax：03-6277-5669
メールアドレス　304kyoyu@imaikankyoyukai.or.jp
ホームページ http://www.imaikankyoyukai.or.jp
郵便振替口座　00170－2－83102
加入者名　特定非営利活動法人今井館教友会

編集後記

今号は、西永さんの巻頭言でも触れられている矢内原忠雄についての、新しい資料（その２）を藤田さんがご紹介下さった。矢内原の最初の妻愛子からの書簡は、伝道者の妻であっても、単なる夫の補佐ではない存在であったことが窺えます。鳥居さんは、夏の安曇野集会が、多彩な講師を迎えて、毎夏、心身に涼を提供して来た素敵なリトリートだとご紹介下さっています。小林さんは時宜に適った内村の言葉を選び、解説して下さいました。北海道の当時の農業事情は、現在とは全く異なっていたことでしょう。次第に慣らされて来た猛暑ですが、神様がきっと秋と冬を準備して下さると信じられるからこそ堪えられます。どうぞ、皆さま水分補給をお忘れなく。　(C.Y.)